

いも見られる。今後、実際の学部教育カリキュラムの中で両者をどのように位置づけて行くか、十

分に検討する必要がある。

## 6. 準備教育・行動科学教育委員会

中村 千賀子（委員長・東京医科歯科大学）

### 1. 今年度の目標

現行の「準備教育モデル・コア・カリキュラム」を、時代状況、医療環境、臨床現場の実情と変化の動向に即して吟味し、新たな準備教育モデルに必要な、情報収集、分析、検討、素案づくりを行う。

「準備教育モデル・コア・カリキュラム」において内容が十分に活用されていない「人の行動と心理」を見直し、教育現場に即した代替案を作成すべく、重点的に検討する。

### 2. 準備教育の位置づけ

教養科目との橋渡し、卒前専門教育に関わる基礎知識やスキル修得としてのみの準備教育ではなく、卒後の、専門職・社会人として歩み続ける上での準備教育と位置づける。とりわけ人文・社会科学領域では、多様で変化し続ける社会状況や医療環境を常に把握し、対応し学び続ける「生涯学

習社会」を想定、これを生き抜くに必要な見方や方法、関連学問領域の参照・活用方法などを学ぶことを準備教育と考える。

### 3. 準備教育モデル・コア・カリキュラム全体について

「情報の科学」については、科学的見方や方法論（人文・社会科学のそれを含む）、その基盤となるフィロソフィー、調査法、発表スキルなどを含む上位カテゴリ「キャリア開発の基礎スキル」を新たに立て、統合すべく検討する。

「人の行動と心理」を、個人の心理、行動、対人関係を軸とする項目と捉え、これとは別に、社会関係、生活環境、制度、政策、経済、文化などの文脈から人間、社会、医療についての総合的な理解を育む「社会と医療」という項目を検討する。「くらしの現場」を中心に据え、その前提となる制度や経済などの社会環境とそこで社会関係を生きる個人の双方に注目できるモデルを模索する。

## 7. FD 委員会

高橋 弘明（委員長・岩手県立中央病院医療研修部）

FD (Faculty Development) は、学習指導者の教育能力開発を意味する言葉として使われていることが多い。日本医学教育学会 FD 委員会は、卒前・卒後教育に関わる FD 充実を活動目標としている。全国の FD の現状を把握するとともに、

年一回の医学教育者のためのワークショップ（富士研 WS）の企画・運営を行う。富士研 WS は全国の医師養成機関等で、指導的立場にある人材を対象に、FD を企画・運営する能力の修得を目的とするほか、医学教育の発展と開発を行うための

役割の一端も担っている。

2006年から2008年は、第15期FD委員会が活動した。第33～35回富士研WSを企画・運営し、第34回では参加者による国民への提言を作成し、公開した。また、今まで実施されてきた医学教育ワークショップの企画・運営方法をまとめた医療プロフェッショナルワークショップガイドを監修した。

2009年から第16期FD委員会が活動を引継ぎ、まず、各委員の情報共有と今後の方針の確認を行った。最初の活動は第42回日本医学教育学会大会プレコングレスワークショップⅢ「臨床研

修指導医講習会のあり方」の企画・運営である。このワークショップには40名が参加し、指導医講習会のカリキュラム・プランニングの重要性を再確認したが、その他のTipsの重要性も認識し、指導医講習会の開催に有益なディスカッションが行われた。

厚生労働省、文部科学省と共催した第36回富士研WSでは、参加者により作成されたプロダクトとして医学教育の改善に関わる提言をまとめ、医学教育誌と日本医学教育学会ホームページに公開する。

## 8. 教材開発・SP委員会

志村 俊郎(委員長・日本医科大学教育推進室)・吉井 文均(副委員長・東海大学医学部神経内科)

模擬患者(SP)による医療コミュニケーション教育をはじめとして、シミュレーション医学教育は臨床技能教育に関し従来の教育方法に比べて教育効果が高いことが広く知られている。当委員会では、シミュレーション医学教育を通じて臨床教育を効果的・効率的なものとするために、標準模擬患者養成と模擬患者参加型の教育技法の確立、シミュレータ、バーチャルリアリティなどの教材開発、など、シミュレーション医学教育システム全般の構築と充実を図ることを目標とする。現在行っている具体的な活動を以下に示す。

1. 全国の医学部・医科大学を対象に卒前教育における模擬患者参加型教育、および共用試験OSCEに参加する模擬患者の養成状況を明らかにすることを目的に平成21年12月に実態調査を行った。結果は、80医科大学中65校(回収率81%)で、現在内容の分析中である。
2. 近年、各医学部や教育病院でスキルスラボを

持つところが増えつつある。しかし施設はあったとしても、専門的に管理運営する人材がいがないため、有効に活用されていないという施設も少なくない。そこで本委員会では、必要な物品のセットアップからシミュレーション教育のカリキュラムの立案等を担当するコーディネータの創成を後援するために、スキルスラボの管理運営に焦点を当てた第一回研究会を平成21年12月に開催した。

その他本委員会では、下記の検討事項を計画中である。

- ① 模擬患者の全国標準化を図るため、模擬患者養成のためのカリキュラムを作成し、医学教育カリキュラムでの模擬患者を利用した教育の導入を提言する。
- ② シミュレーション医学教育のスキルスラボにおける現状を調査する。